

ご存知ですか？作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)

- ★ 理学療法士(PT)とともに、リハビリテーションで中心的な役割を担う専門家(国家資格)です。
- ★ 養成校を卒業すると国家試験の受験資格が得られます。
- ★ 「やりがい」が得られ、「待遇」「将来性」も安定した仕事です！

障害により失われた生活習慣を取り戻せるよう支援いたします。

生活習慣



生活習慣というのは特別なことではありません！



朝起きてから
夜寝るまでの間

毎日繰り返し行っている事柄です

24時間…365日…



仕事…趣味… 衣食住…

障害の辛さ…それは、日々の当たり前の生活(習慣)を失ってしまうことにあります



リハビリテーションには段階があり、OT・STは“使えるように・暮らせるように”をサポートします！

「生活習慣を取り戻す…」言うは易し…。しかし、そこには越えなければならない幾つかのハードルがあります。

第1段階

“動くように”“動けるように”の段階

治療の段階で主に病院で行われます。(PTが主体です)



しかしながら…動けるようになっても“暮らせる”わけではありません(「動く」と「使う・暮す」は別次元です！)

第2段階 OT・STが主体となる段階です！

“使えるように”“暮らせるように”の段階

障害を持ちながらも、その人らしく暮らしていけるよう必要な事柄を訓練する段階です。



趣味活動

OT



生活行為の訓練



ST

話す・食べるの訓練

第3段階

“生活習慣を取り戻す”段階

出来るようになったことを、生活に定着させる段階です。



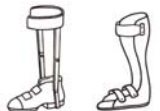
OT・STのバトンを、家族・介護士にリレーします！

“動くように”ならない場合でも諦めないで！OT・STが解決します！

福祉機器を活用したり、住環境を改善することで、残された能力を発揮できるよう工夫します。

OTに
まかせて！

運動を補うための装具や義肢を選定・製作します。



ムせることなく食べられるよう、食事の性状や食べ方を工夫します。

STに
まかせて！

文字盤や補聴器等の機器を活用しコミュニケーション機能を補います。



社会人・大卒者も、資格取得を目指しががんばっています！



介護福祉士から更なるスキルアップ！

作業療法学科2年 林 優語

以前は介護福祉士として働きながら、「ご利用者にいつまでも現役で暮らしていただきたい…今よりもっと自分らしく生活していくにはどうしたら良いか？」を考えていました。作業療法士の資格を知った時“これだ！”と思いました。障害を抱えながらその人らしく暮らすための援助ができる。そんな資格者を目指し、毎日、仲間と共に勉強に励んでいます。



“やりがい”を求めて未知の世界にトライ！

言語聴覚学科1年 谷口 明

金融機関(銀行)という全く畑違いの分野から一転、「売り手が望む商品を顧客に売るのではなく、相手の望みを叶える仕事が出来たい」という思いに駆られ、言語聴覚士(ST)という職業に強い関心を抱きました。入学前は不安でしたが、仲間や先生方との交流の中で「この学校なら自分も頑張れる！」と思えるようになりました。